口頭発表「小学校における動物飼育が児童に及ぼす効果について」
～生活科での授業実践から～

平林　翼※　關口　寿也※※

はじめに

令和４年度，本校は小学校動物飼育推進校の１年次の取り組みとして，学校担当獣医師である中川清志先生と連携を取りながら，主に生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法の開発に取り組んだ．校内で飼育しているウサギとの関わりを中心に，第２学年の生活科において授業を構成するまでの準備，学校担当獣医師との連携，地域・保護者との関わり，授業での取り組み，そして児童の変容等を明らかにし，今後の学校教育における動物飼育の存在意義について考察をした．

１　動物飼育に係る児童の実際

本校は近隣に自然あふれる都立公園があり，四季折々の植物に触れたり，動物や昆虫などの生き物と関わったりするなど，自然環境に恵まれた地域である．昆虫や小動物を日常的に飼育している児童も多いが，最終的には自然に返すという意識がある児童が多く，飼い殺しをすることが少ない．命を大切にする気持ちを，日常の生活環境から獲得している面も感じる．令和４年度の２年生は，１年生時の生活科学習において，近隣の自然環境に触れながら学習を重ねてきたことで，生き物を愛でる気持ちを醸成してきた．しかし，2 年生になり，本校で飼育しているヤギやウサギと関わる学習が始まるまでは，動物に対しての知見も経験も乏しい児童も見受けられた．学習を通して，実際に触れ合い，関わりをもつ機会が多くなるなかで，生物への基礎的理解，弱いものへの愛おしみの感情や思いやり，そして学習を通しての思考・判断・表現力を児童が培うことを期待して１年間取り組んでいった．

２　令和４年度取り組みの計画について

(1) 指導方法の開発

①生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法の開発

生活科での学習として動物飼育を行った．ヤギやウサギの特徴，性質，接し方など，実際にヤギやウサギと触れ合ったり，調べたりする中で知見として獲得させていく．また，ヤギやウサギとの関わり方について考え，世話の一環として実際に実行してみる．2 年生が飼育の世話補助を行うこと（主は飼育委員会）で，一層の動物理解が進むと考えた．獲得した知見は，2 月の生活・総合発表会において，全校児童や保護者，地域の方々に向けて発信した．1 年生においては，翌年の学習の見通しとなる．

②生活科以外の教科等における学校飼育動物に係る指導方法の開発

児童に対しての教育だけでなく，教職員への研修も適宜行ってきた．学期末には学校担当獣医師である中川先生を講師に招き，学校飼育動物に関する知見を講義していただいたり，学校で動物を飼育する際の基本的な考え方などを指導していただいたりして，知見を深めた．また，委員会活動の中の飼育委員会の活動にも中川先生からアドバイスをいただき，より質の高い飼育活動になるよう努めてきた．

(2) 学校担当獣医師との連携

①概要

年間を通じて，動物飼育をより適正に行うため，学校担当獣医師である中川先生から，動物の衛生管理等について支援をいただいた．また，生活科において効果的な指導を行

うため，専門的見地からのアドバイスをいただき，飼育動物の健康維持と適切な接し方を教授いただいた．

②計画

6 月に年間計画の打ち合わせを行い，3 月までの活動予定を決定した．実施時間は年間で 20 時間とし，中川先生には衛生管理指導・動物由来感染症防止対策及び治療に関すること，生活科における体験活動・授業協力に関することを主なものとして，支援していただいた．

(3) 保護者や地域等との連携

飼育動物に関する知見を保護者にも広め，地域・家庭にも共有してもらうために，生活科の学習において飼育動物との体験学習を行う際に，保護者にはサポーターとして参加してもらったり，2 月に行われる生活・総合発表会での児童発表において保護者に広く参観してもらったりした．

3　生活科における授業実践について

(1) 授業実践の基本的な構成

年間を通して飼育動物と関わりをもてるよう，単元「めざせヤギ，ウサギはかせ」を設定し，前期はヤギ，後期はウサギの学習を基本とした．どちらの学習においても，中川先生には，体験，調査の学習の際に，ゲストティーチャーとして指導していただいた．体験，調査→まとめ→新たな疑問→体験，調査→まとめ→発表，というサイクルを学習の基本にして，児童が探究的に学習に取り組めるよう工夫した．

(2) 授業実践の実際～ウサギとの関わり～

後期の生活科の学習では，ウサギとの関わりを主な活動として学習を行った．10 月 24 日に児童が初めてウサギと関わりをもつ学習を行い，中川先生にはウサギとの関わり方や心音体験，実際に触れ合いをもつ際の注意点などについて教授していただいた．本授業においては，保護者の方々にも広く呼びかけ，ウサギとのふれあい体験のサポートをしていただいた．児童においては，心音を聞いたり，実際に抱いたりすることで，命に対する理解を深めたり，愛着をもったりする様子が見られた．保護者においても，児童のサポートをする中で，動物飼育に対する理解や支援の思いが高まる様子が見られた．

また，この学習の一週間後に，再度中川先生を招いて，児童が体験を行ったり，ウサギについて調べたりするなかで生じた疑問や思いについて，答えていただく時間を設定した．PDCA サイクルを意識した学習計画を遂行することで，飼育している動物に対する理解を深めていくと同時に，「自分たちで世話をしていきたい」という思いを醸成していくことも出来た．

学習をしてわかったことや考えたことを伝えたいという児童の思いを絶やさぬよう，12 月には 1 年生に対して児童一人一人が発表を行った．そして，2 月の生活・総合発表会でも，全校児童や保護者，地域の方々に，

ぼくたちがお世話するうさぎは、
みたらしです。

←みたらし

これからうさぎを先生がいなくても、うさぎをお世話できるようになりたいです。

ぼくたちは、中川先生(獣医さん)にうさぎのことをたくさん教えてもらいました。
例えば
うさぎをだっこしようとすると、うさぎが逃げ回ります。だっこできたとしても飛び降りようとします。もしも飛び降りてしまったらうさぎのこしの骨がおれてしまいます。こしの骨が折れてしまったらもう治りません。だからだっこするときは気をつけてください。

ウサギやヤギの学習を通して得た知見や思いを，発表することができた．

4　授業実践を経ての児童の変容について

(1) 動物飼育に対する思いの高まり

後期に継続的にウサギと関わる中で，児童は自然とウサギの世話をしていきたいという思いを高めていった．基本的には飼育委員が日々のウサギの世話を担当していたが，冬休み明けの 1 月から，2 年生がウサギの世話を担当することになった．学習を通して学んだことをもとにして直接的な世話を開始し，関わりを深めることで，動物に対する愛着の思いを一層深めていく様子が見られた．

(2) 動物飼育が児童に及ぼす効果について

1 年間，生活科において動物飼育に携わってきたことで，児童は生き物を愛でる思いを高めている様子が見られた．しかし，ただ可愛がるというだけでなく，動物を飼育することの難しさや困難さに気付く児童もいた．「こんなにウンチをするんだね.」「毎日のケージのそうじは大変だよ.」など，育てるということの責任と難しさに直面する発言も見られたが，それは子供たちの中ではけしてネガティブなものではなく「でも，私たちがお世話をしないとウサギさんが生きていけないからがんばろう」というポジティブな声かけをお互いにしている姿が見られた．このような光景は，飼育活動の中だけでなく，日常の学級生活のなかでも形を変えて，クラスの中で少しずつ表れていった．

動物飼育を通して，児童が見せる生き物を愛でる思いや声掛け，共感的理解や行動は，その対象となる生き物に対するものだけでなく，日常生活の中において自分自身や周りの友達に対しても表れるものであることを，今回の実践を通して実感することができた．動物飼育は，子供の心を豊かに

育てるのである．

学校教育における動物飼育は，児童の心の情操を育むうえで，多くの価値があるものであり，教育的価値があるものである．昨今の学校現場において，動物飼育を行うことには課題もあるが，動物飼育の存在意義が今後一層の高まりを見せることを期待している．

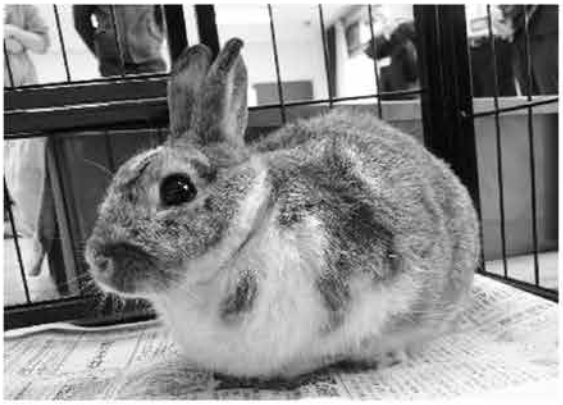
5　学校における動物の飼育体制について

(1) 連光寺小学校の概要

・多摩市の東部・既存地区に立地
・創立 50 年　地域の要請で創立した経緯
・全校児童 360 名 12 学級
・都立桜ケ丘公園，市立大谷戸公園に隣接
・総合的な学習の時間で ESD を推進～多摩川や里山，エネルギーの学習を進める(SDGs7,11,13,14,15)
・児童が日常的に生き物に接し環境保全意識が育っている(タヌキ，イモリ，ヤモリ，サワガニ･･･)
・明治天皇のお狩場であったという土地の歴史

(2) 連光寺小学校の飼育動物

・シバヤギ　2 頭（東京農工大学よりレンタル）
・ウサギ　2 頭（市立公園で保護，近隣保育園からの譲渡）



(3) 飼育体制

①児童の協働

・飼育委員会による毎日の清掃，餌やり
・2,3 年生によるうさぎケージの世話

②教職員の協働

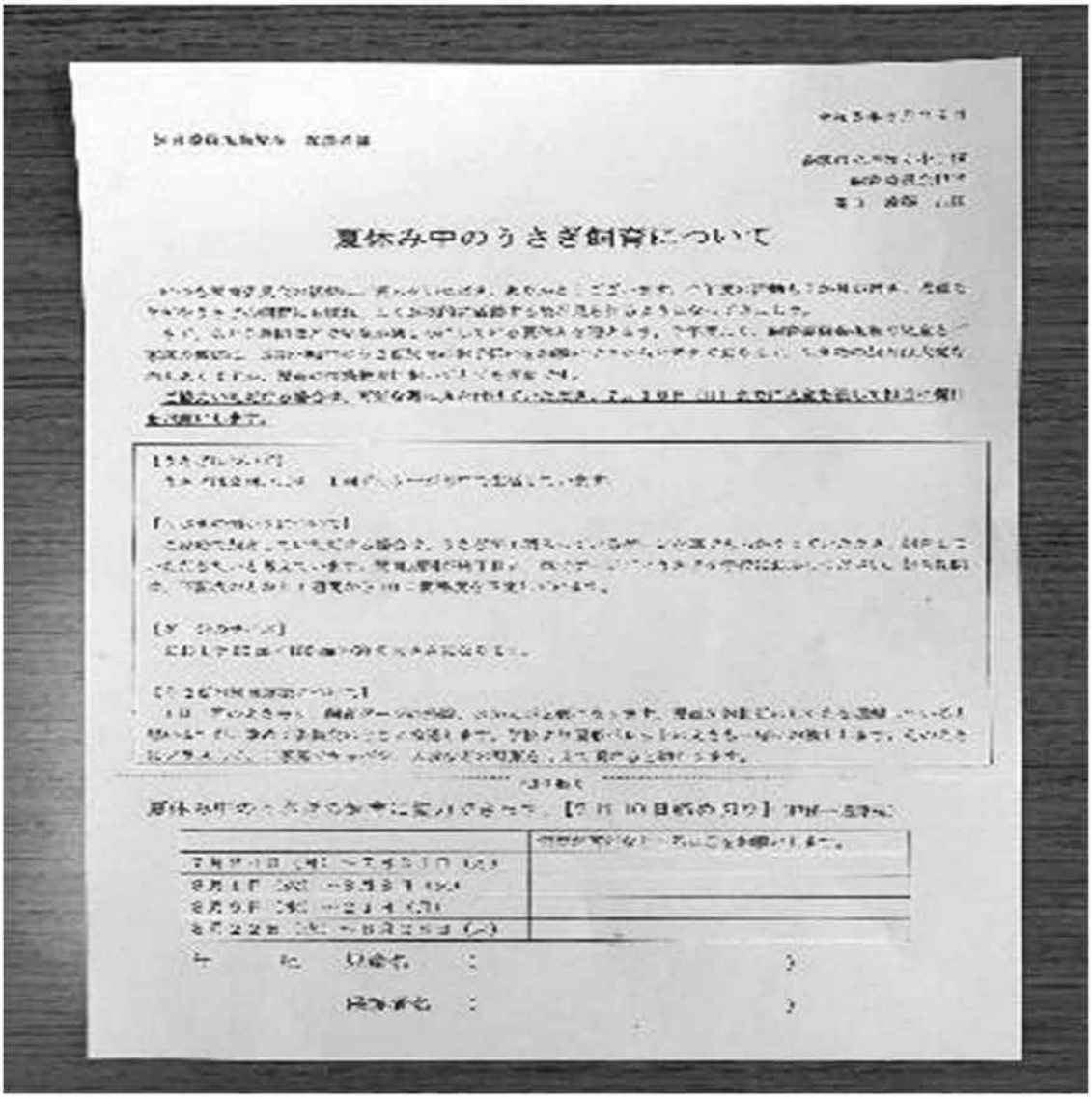
・日常的な餌の確保，清掃
・長期休業中(閉庁日含)のヤギの世話

≪期待するもの・課題≫
・他者意識の醸成
・学校の一員としての意識
・「生きている」ことへの実感共有
・特定教職員への負荷

③家庭・地域との協働

・日常的な餌の寄付(HP で呼びかけ)
・長期休業中のうさぎの預かり

≪期待するもの・課題≫
・一緒に育てる一体感(家庭で飼えない代替活動)
・情操教育に大人が気づく
・中心となって活動していただける方という存在



夏休み中のうさぎ飼育について

④東京都教育委員会との協働
・東京都小学校動物飼育推進校の指定

≪期待するもの・課題≫
・人的補助(担当獣医師との連携)→飼育の知見(環境，接し方，餌，研修会)，疾病への対応，埋葬時の指南
・予算的補助→飼育環境の改善(子供たちが触れること)，飼料(冬期用アルファキューブ)

(4) 学校で動物を飼育する理由
・負担の偏り，費用の工面，保護者
・地域連携を超えて子供たちが享受するメリット
・「生きている」実感，死生観，他者意識・・・
→ 分業化された現代社会が消し去った情操教育の基本

(多摩市立連光寺小学校　※主任教諭
※※校長)